

復興事業にともなう貝塚の発掘調査に対する支援

現在、東日本大震災の被災地では、復興事業にともなう発掘調査が数多くおこなわれています。そして、津波の被害を受けた沿岸部には、縄文時代の貝塚が埋没している可能性があります。貝塚には、土器や石器等の遺物とともに、貝殻に含まれるカルシウムの影響によって通常の遺跡では残りにくい人骨や動物骨、骨角器が保存されており、過去の人々の暮らしを知る上で非常に多くの情報を与えてくれます。したがって、やむを得ず貝塚を発掘する場合には、円滑な復興と埋蔵文化財保護の両立を図るためにも、迅速かつ効率的な調査をおこなうことが重要な課題となります。

例えば、宮城県気仙沼市の波怒棄館遺跡^{はぬきだて}では、高台への集落移転（防災集団移転促進事業）にともなう発掘調査によって、保存状態の良好な縄文時代前期の貝塚が見つかりました。迅速な発掘調査を実施するため、奈良文化財研究所では現地に職員を派遣して、宮城県や気仙沼市の職員や全国からの派遣職員の皆さんとともに、効率的に調査が進められるように作業をおこないました。

また、この発掘調査には多くの地元の方々が作業員として参加されていました。初めて貝塚の発掘調査に参加された方が多かったので、発掘する際の留意点を伝えるとともに、今回の調査であきらかとなる成果についても説明しました。地元や全国の皆さんのご尽力によって、波怒棄館遺跡の発掘調査は限られた期限の中で無事に終了しています。今後は奈文研において、波怒棄館遺跡から出土した膨大な動物骨や貝殻を分析して、縄文時代の人々の暮らしぶりをあきらかにしていきます。

（埋蔵文化財センター 山崎 健）



波怒棄館遺跡での説明の様子